

倉長竹二郎 くらなが たけじろう 小説家、将棋評論家。明治二十五年十一月九日京都生れ、昭和十一年九月二十七日歿（一九〇一—六六）。昭和四年慶應義塾大學文藝部卒。八年陸軍歩兵少尉、十年東京日日新聞社入社（将棋観戦記者）、十二年應召、北支支隊轉戦し翌年歸還、中尉に陞り十六年陸軍報道班員としてビルマに派遣、宣傳班長に任じ翌年歸還。戦後著作生活。

著書『我らは如何に闘つたか』（合著・三省堂出版部編、昭和十六年五月十日三省堂）、『大東亞戦争陸軍報道班員手記』（合著・文化奉ハム會編、3『ビルマ戦定戦』昭和十七年八月十六日、5『ビルマ建設戦』十八年一月二十五日、『從軍隨想』六月二十七八日大日本雄辯會講談社）、『明けゆくビルマ』（昭和十八年七月二十日二田文學出版部）、『愛情の四季』



（昭和二十二年十一月二十五日富國出版社）、『将棋大平記』（昭和二十四年五月一日日東出版社。再刊・四十八年十月十五日光風社書店）、『篇眠られぬ夜の六めい』（合著・高見順編、新装版・昭和二十六年四月十五日四季社）、『将棋名人戦観戦記』（編、昭和二十一年五月五日中央公論社）、『運命を握る男―勝負師小菅剣之助の生涯』（昭和二十九年二月五日冬樹社「冬樹新書」）、『近代将棋の名匠たち』（昭和四十六

年十月、千代田川書店「角川選書」

『勝負師群像』

(昭和四十九

年七月、千代田川書店「角川選書」等。

